

丹波育児院

～辻原光治とその周辺の人々～

第4回

大朴村「友金」光治
辻原光治は二三歳まで「友金光治」でした。前号で引用した『国勢調査控』には養子の場合「養父・養母」と続柄が記されていますが、辻原光治については「清之丞・父、げん・母」となっており、当然実の親子で、光治は長男だろうと思いついていましたが、そうではなかったようです。
そのことが判明した経緯は、こうです。丹波育児院は「徳育はキリスト教主義による」としていましたが、辻原はキリスト教徒だったので、キリスト教関連の資料を調べました。すると谷平吉「丹波基督教會史」（昭和九年）の中に辻原の名前があり、信徒だったことが確認できました。そこで、園部の丹波新生

教会（宇田慧吾牧師）で古い記録を見せてもらうと、受洗者名簿に「船井郡大朴村・友金光治（明治七年三月生）」とあり、のちにその上から「大朴村・友金」を線で消して「水呑村・辻原」明治三十年一月辻原に改姓」と書かれているのが見つかりました（左下写真）。

さらに意外だったのは、友金光治は「八郎兵衛養子」と記されていたのです。つまり、光治はさらに別の家から友金家へ養子に入っていたことになり、光治の実父母が誰だったのか、いよいよ分からなくなりました。

養父友金八郎兵衛については明治二二年の檜山村会議員当選者のなかに名前があり（「檜山村誌」）、子孫と思われる家が現在大朴（京丹波町）にあります。

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全

「教会員名簿」右端に友金(辻原)光治、6行目に辻原佐太郎が見える。3行目には波多野鶴吉も。

長男辻原佐太郎
教会名簿を見ていくと、さらに発見がありました。「清之丞長子辻原佐太郎（明治元年一月生）」とあり、清之丞夫妻に佐太郎という長男がいたことがわかったのです。佐太郎の欄には「明治二三年三月前橋教会ヨリ転」「明治三三年□月永眠」と記されていました。
前橋協会というのは群馬県前橋市の教会です。群馬県といえば富岡製糸場（世界遺産）で有名なように当時の蚕糸業の最先進地で、全国各地から多くの視察者や研修者が集まっています。辻原家も蚕糸業を営んでいましたから、佐太郎が前橋に滞在していたことがあったのでしょうか。
『丹波基督教會史』には「明治三三年一月二五日、水呑村辻原佐太郎氏、芦田こと子と結婚式を挙げ」と出てきます。佐太郎は、前橋教会で洗礼を受け、二三

年に二二歳で帰郷して丹波教会へ転入し、同年クリスマスに結婚式を挙げたということとなります。
結婚九年めとなる三二年十月二五日には「辻原琴子（琴）は京都市内へ転居したのだと思われます。洛陽協会は京都御所の東南角にある教会です。佐太郎が一緒だったのかどうかは不明です。佐太郎は翌三三年（月不明）に三二歳で永眠しますから、すでに病身だったのかもしれませんが。」
光治が辻原に改姓したのは佐太郎が亡くなる三年前の三十年一月でした。「改姓」が婿養子に入ったことを意味するのなら、光治はこのとき辻原家の娘と結婚したのかもしれませんが、确实なことはわからず、光治

の実父母や改姓の経緯については今後も調べていかなければなりません。
キリスト教との出会い
友金光治はいつ、どこでキリスト教に出会ったのでしょうか。

丹波地方にキリスト教（特にプロテスタント）が広がるのには京都の同志社が大きく寄与しました。明治八年（一八七五）に新島襄（一八四三〜一八九〇）が設立した同志社は、十年代になると京都府下に教師や学生・卒業生を派遣して活発に伝道活動を展開します。

その成果として一七年（二八八四）十月に船枝村（南丹市八木町）に丹波第一教会が設立され、さらに同年に胡麻会堂（南丹市日吉町）、二一年二月に須知会堂（京丹波町須知）設立へと伸展してい

きます。「会堂」とは教会支部と考えてよいでしょう。福知山・綾部への伝道も進み、二六年には福知山に丹波第二教会を設立しています。二八年には松山会堂京丹波町橋爪も設立されます。
松山での最初の伝道者は、橋爪の近藤亮太郎（？〜一八九八）でした。近藤は、岡山医学校（現岡山大学医学部）の学生時代に岡山で入信して、明治二二年の夏、休暇で帰省した近藤は家族や友人たちに伝道します。『丹波基督教會史』には「七月二九日松山村に於て説教会を開く」とあり、これが松山地方へキリスト教の伝わった最初だろうといわれています（船越基「開拓者と使徒たち」）。
翌二三年一月一二日には「松山近藤環氏母きし女永

眠葬式を行ふ、説教者留岡幸助師」とありますから、この時点ですでに多少の信徒があつたものと思われる。その二か月後の三月九日、友金光治は須知会堂に於いて留岡幸助牧師から洗礼を受けました。一六歳になつたばかりでした。
この年の夏には七月三十日に豊田、三一日と八月二日に保井谷、八月一日と二三日に松山で説教会が開かれています。光治は下和知の新生社に入社していた時期ですが、これらの説教会に信徒として参加したのもと思われる。

以上からすると光治は二二年の一五歳のころに、おそらく近藤亮太郎の伝道を通じてキリスト教に出会ったのだろうと推測されます。近藤家は松山で代々旗本

界遺産）で有名なように当時の蚕糸業の最先進地で、全国各地から多くの視察者や研修者が集まっています。辻原家も蚕糸業を営んでいましたから、佐太郎が前橋に滞在していたことがあったのでしょうか。
『丹波基督教會史』には「明治三三年一月二五日、水呑村辻原佐太郎氏、芦田こと子と結婚式を挙げ」と出てきます。佐太郎は、前橋教会で洗礼を受け、二三

柴田氏の代官をつとめた家で、環（一八四三〜一九〇六）も篠山で医学を修得した医師であり、初代檜山村長や府会議員をつとめました。『丹波基督教會史』の明治三九年三月二三日の項には「檜山近藤環（求道者）葬式執行」と出ています。
亮太郎は環の養子でした。二五年に医学校を卒業、山村小千代と結婚し、二八年に松山へ帰って医院を開業するとともに自らの土地を提供して松山会堂を建築しました。場所は現在の室米穀店裏側の道路を挟んだ一角（松山九番地？）でした。十一月一三日の竣工式典には「百余名」が参会しています。
亮太郎は松山部の中心として活躍しましたが、養父より早く三二年一月二月に早逝しました。（山下幾雄）